様式1

令和3年度　学校評価表

学校教育目標	夢を語り，志を抱いて未来を“そうぞう”できる生徒の育成

a　ミッション	夢や志を持ち社会に貢献できる人材を育成する	a　ビジョン	○ 安心・安全で，生徒が夢と志を抱き，心豊かに生き生きと活動する学校 ○ 自ら学び，考え，判断し行動する生徒を育成する学校 ○ 心豊かに，自他を尊重し，共に学び，高め合う生徒を育成する学校

尾道市立御調中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
御調クロスロード（時間軸と空間軸）	全ての子どもたちの可能性を引き出す教育実践	語彙力・読解力の向上を軸に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 各種調査の平均通過率の向上	○生徒の読書量増加の工夫 ○ICTを効果的に取り入れた授業の開発 ○繰り返し学習の徹底 ○各種検定試験を受検した生徒の割合	読書数【アンケート】 図書室の貸出数【調査】 各教科単元開発１単元以上 1･2年　標準学力調査の正答率　全国平均以上（1月） 3年　全国学力 IBA（英語能力判定テスト） 各種検定試験を受験した生徒	平均月1冊以上 年間で生徒数の倍以上 100%（11人） 全国平均を上回る 全国平均を上回る ５０%	65% 177冊 ２人 全国学力調査の結果は8月末公表 46人	61% 168冊 10人 1年生 20% 2年生 80% 3年生 100% － 126人	６３ 115 109 ６６ － １１６	C A A C － A	○語彙力・読解力を高めるために生徒の読書量を増やす取組を進めている。平均月1冊以上本を読んでいる生徒の割合は，7月まで、月平均：65.6%。12月までで、61%。面接等ではもっと読んでいる様子が感じられるのでアンケートの工夫が必要であった。 ○図書室の本の貸し出し数は，1学期の合計が177冊だった。２学期と1月の合計は168冊、年間で345冊だった。 ○校内授業研究を７回実施し、ＩＣＴの活用など組織的に授業改善に取り組み、10人の職員が延べ１２の単元開発を行った。 ○「標準学力調査」の現２年生は，（４月実施）国語が全国平均をわずかばかり上回った。数学は全国平均を下回った。現１年生は，国語・数学とも全国平均を下回った。１月実施の標準学力調査の結果では現２年生は，国語以外の４教科で全国平均を上回った。現１年生は，英語のみ全国平均を上回り，他の４教科は全国平均を下回った。 ○3年生の全国学力調査で，国語の正答率は70.0で全国平均の64.6をかなり上回った。数学の正答率は59.0で全国平均の57.2を1.8上回った。 ○ＩＢＡは2・3年生とも前年平均を上回ったが、全国平均がないため、指標としない。 ○１学期学校実施実績（受検者数）【漢字検定：１５名，英語検定：３１名】（全校生徒数の50%に対しての割合62%）２・３学期の漢字検定32名，英語検定48名であった。	３			○語彙力・読解力を高めることを目的とした読書量増加（平均月１冊以上）がC評価、図書室貸出数はA評価であることから一部生徒の達成による経過ということが予想されます。読書の取組が即結果に繋がるとは思いませんが、取組の工夫を通じて継続すべきと思います。 ○課題として「アンケートの取り方の工夫」（学校で借りたもの以外でどのくらい読んでいるか調べる方法）とありました。同じ本でも繰り返し読むことで、読むたびに新しい発見もあるので「読書数」の定義はどうしたのか？そもそも学校に借りたいと思う本が揃っているのか？公共図書館にも相談すればもっとアイデアも出てきたのではないか？など思います。連携できればいいですね。 ○いろいろな学習の場面でICTの活用が為されており、生徒たちも使い方に慣れてきているように見えます。 ○「ICTを効果的に取り入れた授業の開発」では、全教員の研究授業の実施があったようですが、「公正な個別最適化」「創造性を育む学び」に繋がっていくよう、更にPDCAを回していってほしいと思います。 ○尾道市では昨年３月、電子図書館が開設され、市内の全小中学生にIDとパスワードも発行済みです。是非、有効活用してください。 ○標準学力調査、全国学力調査等での２年生・３年生到達度が全国平均を上回っています。これは入学後の取組による成果であるのかどうか考察したいものです。１年生が全国平均より低い結果として表れていますので、実態とこれまでの取組の考察内容を基に今後の取組内容・方法を工夫するとよいのではないでしょうか。	○図書委員会で読書量を増やす取組をさらに工夫するとともに読書と学力との関係が明らかになっているデータを生徒に紹介する。 ○語彙力・読解力を高めるためには，新聞記事や新聞のコラムの要約や感想を書くことが有効であると言われているので生徒アンケートの「NIE（学校などで新聞を教材として活用する活動）タイムで，自分の考えをまとめたり，感想を書いたりしています。」の１学期の肯定的評価の割合８４．９%を2学期は90%以上に高められるよう取組を進めた。2学期は88.1%まで改善したがさらに，90%以上になるよう新聞記事をじっくり読み込むための落ち着いた環境を醸成する。 ○各教科の授業においてタブレット端末を活用したドリル学習や生徒一人一人が授業中わかったことや気づきを書き込んでいく活動を今後も継続していくことで一人一人が主体的に学ぶ姿勢をつくっていきたい。 ○みつぎ子ども図書館との連携をすすめる。 ○授業改善として問いの設定を工夫したり，理解しやすい単元構成に配列を組み替えたりするなどして思考力を高めていきたい。
	「御調プライド」で仲間とともに高め合う力と自尊感情の育成	生徒間での成長と，他を思いやる心の育成	○小中高連携や地域ボランティア活動の充実 ○エリア活動・生徒会活動の充実	「地域が好き」と答える生徒の割合 「学校が楽しい」と答える生徒の割合 「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答える生徒の割合 （多面的に評価）	90% 85% 80% 95%	82% 83% 76% 91%	88% 86% 81% 81%	98 101 101 85	B A A B	○生徒アンケート項目「地域が好き」と「人の役に立つ人間になりたいと思う」においては，目標値に達していないが，肯定的回答の割合が高い傾向を示している。しかし，地域貢献に関わる他の項目「地域の行事や取り組みに参加しようと思っている」や「ボランティア活動に積極的に参加したいと思っている」においては，69%・72%と肯定的回答の割合がやや低い傾向を示している。2学期に、小中高による地域清掃活動やオンライン会議を実施するも、学校間での取り組みに対する姿勢や意識の違いにより、生徒を主体とした異年齢集団の協働的な活動の充実に至らなかったことが要因であると考える。 ○生徒アンケート項目「学校が楽しい」と「自分には良いところがある」において、目標値に達している。また，生徒会活動に関わる他の項目「先輩や後輩と協力し、無言掃除に取り組んでいます。」「委員会活動や係活動などの生徒会活動に積極的に取り組んでいます。」「エリア活動を通して，先輩や後輩と交流することができています。」において，95%・86%・82%と肯定的回答の割合が高い傾向を示している。スポーツ大会や球技大会などの学校行事や各委員会のキャンペーン活動を通して、エリア活動の活性化につながったことが要因と考えられる。	３			○「地域が好き」、「学校が楽しい」、「自分にはよいところがある」、「人の役に立つ人間になりたい」にある社会性、充実感、自己肯定感、協調性等の結果がどれも高く、学校と地域、校種間連携が継続的に取組まれてきている成果ともいえるのではないでしょうか。中間評価よりも年度末評価の方が肯定度が上昇している点も評価できると思います。計画・取組継続・評価が機能してるのではないでしょうか。 ○人口流出が止まらない尾道市において、将来地元に戻り生活をしたいと思ってくれる次世代を育んでほしい。そのためには、他府県の成功事例も参考にしながら、達成のための方策をより、深化してほしい。 ○コロナ禍の為、地域でのボランティア活動などが制限されているのが残念に思います。 ○地域清掃活動やオンライン会議での活動が今後改善されて充実したものになる事を願います。 ○校内の活動において、生徒の皆さんが意欲的に取り組んでおられ肯定的な回答が高い事がすばらしいと思います。	○来年度は、小中高連携での活動内容および取り組み方法を再検討し、生徒が主体的に活動できる工夫および地域の方々との交流を仕組んだ取組をしていきたいと考える。 ○来年度も、本年度の取り組みを継続しつつ、委員会活動や学校行事において生徒が主体となる新たな取組を企画・実施することで、生徒の自己肯定感やコミュニケーション能力の向上を図りたいと考える。
	教職員が笑顔で生徒の前に立てる，ワーク・ライフ・バランスの実現（働き方改革）	業務改善の志向	○行事等の精選 ○執務時間の創出 （クロームブックの活用など）	子どもと向き合う時間が確保されていると感じている教職員の割合 日々の業務の中で充実感を得られていると感じている教職員の割合 時間外勤務時間の削減。 ・1ヶ月の合計　４５時間以下 ・1年の合計　３６０時間以下	80% 80% 80%	82% 100% 22%	92% 100% 27%	100 100 34	A A D	○時間割の工夫や、行事の工夫等が結果につながっていると思う。 ○充実感を得られていると答える教職員は100%になった。落ち着いている生徒の姿や、満足度の高い保護者のアンケートからも充実感を感じていると思われる。 ○特定の教職員の時間外勤務が多く、固定化されている。	３			○ここ２年間にわたっての新型コロナウイルス感染拡大により、有効的な行事や活動が実施できず、生徒による経験や概念形成に支障をきたしていることも多いのではないかと思います。来年度、学校行事や地域関連活動等が実施、開催され、よい経験の場が整備されることを願っています。 ○業務改善、取組成果を生かした意識高揚等、職場環境、学校環境の努力に敬意を表するとともに期待しております。先生方の健康が教育条件の一つになると思います。 ○生徒と笑顔で向き合うための取り組みに成果が出ているのは、単年度ではなく継続してこられた結果だと思います。 ○「ICTを効果的に取り入れた授業」の延長線上に、「クロームブックの小テスト」と「働き方改革」の実現があるように思います。限られた時間の中で、より効率的に成果を挙げ、新しことに挑戦し続けることができるかが問われています。全教職員が協力し合って、是非、次代を担う子どもたちの範になってください。 ○時間外勤務の固定化を解消する方法を検討していってもらいたいです。	○引き続き御調中学校としての取組を進めていく。 ○来年度は仕事のバランス等を考えて校務分掌を振り分けたい。 ○月に1度でも5時間授業の日を引き続き設定する、行事の精選、行事の工夫（日程・内容等）を進める。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。